

## ■ 平成30年9月5日 経済労働委員会県内調査

### 1 奈良県三輪素麺工業協同組合（桜井市三輪）

【調査目的】三輪素麺の生産状況について

【調査概要】奈良県三輪素麺工業協同組合について説明を受け、質疑応答・施設見学を実施

#### <説明の概要>

- ・日本の麺食文化のルーツをたどれば、素麺に至り、素麺の歴史を遡れば、奈良県桜井市である大和の国の三輪で生まれた手延べ素麺に至る。三輪の歳時記として、繞道（にょうどう）祭、卜定（ぼくじょう）祭、夏越しの大祓茅の輪くぐり、三輪素麺感謝祭がある。
- ・三輪の手延べ素麺は12の工程で作る。
- ・正真正銘の三輪素麺には、鳥居マークの品質保証の認定ラベルである金ラベル、農林水産省により、特定農林水産物等の名称の保護に関する法律に基づき三輪素麺が登録されたことを示す商標であるGIマークが付いている。
- ・三輪素麺の製品には4種の細さがある。10g当りの本数が、誉（ほまれ）は70本から80本、瑞垣（みずがき）は80本から95本、緒環（おだまき）は95本から105本、神杉（かみすぎ）は120本以上。
- ・検査事業は、専門の検査員が月に数回、組合員の製造施設を訪問、サンプル検査並びに指導を行っている。認定事業は、製品を級別に認定している。共同仕入事業は、製品の統一性を図るため、小麦粉・塩・油などの原材料を組合が一括購入し各組合員に販売している。共同販売事業は、組合員が製造した三輪素麺を買い上げ、販売業者に販売している。教育事業は、各組合員の技術の向上又は、知識の普及を図るための指導及び情報を提供している。協同組合の活動として、奈良マラソンで8,000食、エイドステーションに採用されている。

#### 【質疑応答】

Q：冷や麦と素麺の違いは。

A：端的には太さの違いである。JAS規格で決められており、1.3mmまでが素麺、1.3mmから1.7mmまでが冷や麦、1.7mm以上がうどんとなっている。

Q：全国素麺の中で、三輪素麺が占めるシェアは。

A：全国で約20%弱である。

Q：三輪素麺を初めて食べたとき、すごく細いことと、崩れないことに驚いた。

A：三輪の特徴は細さと、原料が強力粉である。小麦粉には薄力粉、中力粉、強力粉、他にもいろいろな種類があるが、強力粉を使うので、たんぱくが多い。細くできて煮ても崩れない。

Q：最近、色つきの素麺が出回っている。

A：大和野菜を使った素麺の開発に取りくんでおり、今年から宇陀金ごぼう、大和まな、紫とうがらし、片平あかね、この4種類の粉末を練り込んで素麺を作った。去年は天候が悪く、農作物が不作であり、たくさんできなかった。今年は作って販売しているが、大々的な販売はできていない。来年辺りから大々的な販売をしていきたい。



## 2 奈良県農業研究開発センター（桜井市池之内）

【調査目的】センターの運営状況について

【調査概要】奈良県農業研究開発センターの概要説明を受け、質疑応答・施設見学を実施

### <説明の概要>

- ・研究課題（テーマ）は、研究企画委員会の承認や内部協議を経て取り組む課題を決定。  
売り上げを上げる研究…新品種の育種、収量向上技術、高品質化技術、病害虫防除技術など。  
加工品開発、機能性の評価（差別化）など。  
コストを下げる研究…新品種の育種、省力化技術、機械化。新資材病害虫防除技術など。  
栽培面積を増やす研究…省力化により発生した余力を規模拡大に回す、儲けの一部でパートを雇用する。
- ・現在、農業研究開発センターが取り組んでいる研究テーマ
  1. 「奈良県農業研究開発中期運営方針」に掲げている研究（高度化研究）… 15 課題
    - ①薬用作物安定供給研究事業②新品種種・優良系統育成事業
    - ③加工商品開発研究事業④革新的生産技術開発事業
  2. シーズ創出型研究開発事業（現場対応型研究）… 14 課題
  3. 産学官連携研究… 20 課題 受託研究、共同研究
  4. その他… 7 課題 県の施策を推進するための研究、消費・安全対策など「奈良県農業研究開発中期運営方針」に掲げる4つの目標（課題）  
漢方…薬用作物の安定供給、優良品種の育成、省力・安定生産技術の開発、生薬以外への利用  
に向けた生産技術の開発、宇陀地域に適した薬草栽培技術の開発  
育種…優良品種の育成、商品性の高い新たなイチゴ品種の育成、産地間競争に打ち勝つキク品  
種の育成、甘柿のない時期に出荷できる甘柿品種の育成、遺伝資源の保存と活用  
加工…加工商品の開発と加工技術の研究、イチジクなどの奈良オンリーワン加工品の開発  
奈良特産品の成分分析と調理・加工法の開発、機能性成分に着目した新商品の開発  
栽培…革新的な生産技術の開発、脱化学農薬！天敵利用技術の開発、脱化学農薬！微生物利用  
技術の開発、耕作放棄地の再生と利活用技術の開発、奈良六産品の高品質・安定生産技  
術の開発、奈良にふさわしいパイプハウス雪害対策技術の開発、女性に優しい農業機械  
の開発

### 【質疑応答】

問：イチゴと柿はどのような状況か。

答：柿は刀根早生が奈良県が作り、刀根早生と富有柿が二大品種となり、その間を埋めるような柿を作ろうと育種をしている。渋柿と甘柿をたくさん掛け合わせて、よいのを選別している。イチゴは年間4000粒、いろいろな交配をする。4000個体を作りそこから選別する。4、5年かかって選定して、最終的には農家に集まってもらい、これがよいのではというのを現地試験をして品種登録をする。柿は品種登録まではしていないが、菊、イチゴは、以前から育種をしているので次々品種を出していこうと頑張っている。

